令和８年度第３１回九州地区聴覚障害教育研究大会〈沖縄大会〉
大会要項

１ 大会名称　令和8年度第31回九州地区聴覚障害教育研究大会（沖縄大会）

２ 大会主題　「一人一人の子供を主語にした聴覚障害教育の質の向上を目指して」
～言語力を高め、自ら思考し、豊かに学ぶための授業づくり～

【主題設定の理由】

中央教育審議会における答申「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～」のはじめに「各学校段階における子供の学びの姿や教職員の姿、それを支える環境について、「こうあってほしい」という願いを込め、新学習指導要領に基づいて、一人一人の子供を主語にする学校教育の目指すべき姿を具体的に描いている。」とある。学校教育の「指導者の視点」から「学習者の視点」への再考が強調されている。また、学習指導要領の着実な実施やICTの活用によって、「一人一人の児童生徒が自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の造り手となることができるようにすることが必要」であるとされている。

一方、聴覚障害教育を巡る状況は、補聴機器や医療技術の進歩、障害の重度、重複化や多様化、通信・情報機器の発展、手話言語条例を機とした社会的関心の高まり等と関連し、変化している。

また、全国の聴覚特別支援学校は、在籍者数が減少傾向にあり、学級数や教員数も減少しており、働き方や校内における聴覚障害教育専門性の継承・発展に係る持続可能な課題にも直面している。

時代が変化しても、聴覚障害教育専門性でもある、生活や学習の基盤となる言語力やコミュニケーション能力を重視した教育実践、指導技術は、これからも継承され、発展させていくことが求められる。

そのためには、こうした専門性を基にした質の高い教育活動を目指していく必要がある。また、聴覚障害教育の在り方は学習者である一人一人の子供を主語に検討される必要があり、言語力とともに自ら思考する力を、授業を通して高めることは、これからの予測困難で変化の激しい社会の中で自ら豊かな生活や社会を創り上げていくための「生きる力」に繋がると考える。

このような背景を踏まえ、本大会では、「一人一人の子供を主語にした聴覚障害教育の質の向上」を目指して、各校の実践研究を持ち寄り、協議しながら情報を共有し、課題を整理し、さらに今後の展望について協議を深め、聴覚障害教育に携わる教師としての資質の向上と専門性の継承・発展を願い、本主題を設定した。

３ 期　日　　１日目 令和8年11月26日（木）
10:00～17:00（9:30受付開始）
２日目 令和8年11月27日（金）
9:50～12:00（9:15受付開始）

４ 会　場　　沖縄県立沖縄ろう学校
〒901-2304
沖縄県中頭郡北中城村字屋宜原415番地
TEL 098-932-5475　FAX 098-932-8248

5 主 催　　九州地区聴覚障害教育研究会

6 主管校　沖縄ろう学校

7 協力校　福岡県立福岡高等聴覚特別支援学校　福岡県立直方特別支援学校
福岡県立久留米聴覚特別支援学校　福岡県立小倉聴覚特別支援学校
福岡県立福岡聴覚特別支援学校
長崎県立ろう学校　佐賀県立ろう学校　熊本県立熊本聾学校
大分県立聾学校　宮崎県立都城さくら聴覚支援学校
鹿児島県立鹿児島聾学校　宮崎県立延岡しろやま支援学校

8 後 援　九州地区聾学校長会　沖縄県教育委員会　沖縄県立特別支援学校長会
日本教育公務員弘済会沖縄支部

9 記念講演　大会1日目 11 月26日（木）14:50～16:20

【講師】東北福祉大学 教授 大西 孝志 氏

【演題】聴覚障害教育における主体的な学びを育む授業の在り方

― 大西　孝志　氏　プロフィール ―
1987 年　東京学芸大学　教育学部　教育学士取得　聾学校教員養成を終了
1997 年　北海道内の聾学校教諭として勤務
2006 年　北海道教育庁　空知教育局義務教育指導班　特別支援教育スパーバイザー
2010 年　文部科学省　初等中等教育局　特別支援教育課　特別支援調査官
2015 年　東北福祉大　教育学部　教授
【研究・教育分野】教育学、特別支援教育、聴覚障害教育、言語障害教育
「聴覚障害教育/聴覚障害者の心理」など、聴覚・言語領域の授業を担当
【著書】
○「特別支援学校・教育実習の手引き」（東北福祉大学教職課程支援室　発行）
○ 「特別支援教育ハンドブック」

10 大会日程及び会場

(1)大会事前日程

指定授業【動画:オンデマンド配信】【指導案】

	期　　間	配信、事前質問送付先
配信期間 指導案配信期間	令和８年10月22日（木）から11月27日（金）まで	沖縄ろう学校 ホームページにて案内
事前質問受付	令和８年10月22日（木）から11月13日（金）まで	

(2)大会日程

月　日	時間	内容	場所
1日目 11月26日（木）	9:30～9:55 10:00～10:50 11:00～11:40 11:50～12:50 13:00～14:30 14:50～16:20 16:35～17:00	受付 公開授業 開会行事 昼食・休憩 授業研究分科会 記念講演 研究協議分科会係の打合せ	校舎棟玄関ホール 各学部 体育館 体育館　各控室 各教室 体育館 各分科会教室
２日目 11月27日（金）	9:15～ 9:45 9:50～11:35 11:40～12:00	受付 研究協議分科会 閉会行事 （各分科会で実施）	校舎棟玄関ホール 各分科会教室 各分科会教室

（3）大会事後日程

	方　　法	期　　間
記念講演	後日、沖縄ろう学校HPに掲載（12月予定）	※後日、お知らせします。

11　公開授業一覧

幼稚部　10:00～10:40

学 級	授業者	教科･領域	授業場所	単元名
うさぎぐみ （3歳児）	玉城 紘子 名嘉 真樹	朝の会・ 話し合い活動	うさぎ組 教室	「朝の会・話し合い活動 ～今日も1日がんばるぞ！～」
ぱんだ・ くまぐみ （４歳児）	比嘉 千恵美 新城 理奈	朝の会・ 話し合い活動	ぱんだ・ くま組 教室	「朝の会・話し合い活動 ～今日も元気に遊ぼう！～」
ぞうぐみ （５歳児）	壷内 彩美 照屋 和代	朝の会・ 話し合い活動	ぞう組 教室	「朝の会・話し合い活動 ～今日もみんなでわくわく伝え合おう～」

小学部　10:00～10:45

学 級	授業者	教科･領域	授業場所	単元名
1年	伊波 興穂	算数	1年教室	ひきざん（2）
2年	黒島 達弥 大嶺 有毅	国語	2年教室	お手紙
3年	宮城 花音	社会	3年教室	火事からくらしを守る
4年	名嘉 美乃	算数	4年教室	面積
6年	譜久島 歩	国語	6年教室	鳥獣戯画を読む ～発見、日本文化のみりょく～
にじ あおぞら (重複学級)	仲宗根 ゆい 喜舎場 香衣	生活	あおぞら 教室	わたしの　がっこう わたしの　まわりの　ひとたち

中学部 10:00～10:50

学 級	授業者	教科・領域	授業場所	単元名
1年	生盛 努	社会	中1教室	オセアニア州～『粘り強く考える』で目指せ！ホームラン級のレベルアップ～
2年	町田 尚弥	国語	中2教室	枕草子・徒然草 ―古文の随筆を読み、現代や自分との共通点を考えようー
重複学級	儀間 沙希子	道徳	2組教室	みんなのために、みんなと一緒に～自分のかふやみの力を生かそう～

高等部 10:00～10:50

学 級	授業者	教科・領域	授業場所	単元名
1年	秋島 康範	国語	1-1教室	状況を他の人に説明しよう
2年	呉屋 大揮	社会	集会室	季節風が育んだ米食文化と生活の変化
重複	波平 ちあき	家庭	1・2-2教室	コンビニでバランスの良い昼食を選ぼう
重複	宮里 安弘	数学	2-1教室	数字と同じ数のビーズを入れよう

12　設定分科会

（1）授業研究分科会（１日目）

研究テーマ：「一人一人の子供を主語にした聴覚障害教育の質の向上を目指して」

～言語力を高め、自ら思考し、豊かに学ぶための授業づくり～

分科会/会場	研究テーマ	助言者
幼稚部 被服室	一人一人の子どもの「伝え合う力」の向上を目指した授業づくり～指導と評価の一本化を通した授業改善～	沖縄ろう学校 元校長　大城麻紀子　氏
小学部 視聴覚室	個の実態に応じた言語力や自己調整力を育む授業づくり～日本語文法指導及び単元構成や振り返りの工夫を通して～	東北福祉大学 教授　大西孝志　　氏
中学部 音楽室	生徒が自分の学びや成長を言語化できる授業づくり～「スパイラル式反復学習」を取り入れた単元デザインを通して～	久留米聴覚特別支援学校 校長　早川就　氏
高等部 寄宿舎	社会参加に向けた　生徒が自ら考え　伝え合い行動する力を高める授業改善 ～多角的思考を育む単元計画と振り返りの工夫～	福岡教育大学 准教授　喜屋武睦　氏

(2) 研究協議分科会（２日目）

	分科会	助言者	会　場
1	早期教育（乳幼児教育相談・幼稚部）	沖縄ろう学校 元校長　大城　麻紀子　氏	被服室
2	自立活動Ⅰ （聴覚活用、発音・発語、言語指導等）	東北福祉大学 教授　大西　孝志　氏	視聴覚室
3	教科指導（中・高等部）	久留米聴覚特別支援学校 校長　早川　就　氏	音楽室
4	キャリア教育	福岡教育大学 准教授　喜屋武　睦　氏	寄宿舎

研究協議分科会

	分科会名	協議主題（分科会テーマ）	助言者
		主題設定の理由	運営責任校
1	早期教育 （乳幼児教育相談・幼稚部）	活発な会話を育む言語環境について　～家庭への働きかけを通して～	沖縄ろう学校 元校長　大城　麻紀子　氏
		乳児・幼児は保護者を中心とした親しい人とのかかわりを通して気持ちのやり取りや共感関係を築いていく。子供の気付きや心の動きに寄り添いながら分かりやすくかかわり続ける中で、ことばの存在ややり取りの楽しさに目覚めていくものである。乳幼児教育相談や幼稚部教育において、家庭における言語環境を整えるためにどのような保護者支援を展開すべきかについて研究する。	延岡しろやま支援学校・ 都城さくら聴覚支援学校 運営責任者: 満石　恵美子 （都城さくら聴覚支援学校）

2	自立活動Ⅰ （聴覚活用、発音・発語、言語指導等）	聴覚活用、発音・発語指導、言語指導を通した日本語習得のための指導の工夫について	東北福祉大学 教授　大西　孝志　氏
		聴覚障害を有する幼児児童生徒にとって、日本語の習得はコミュニケーション能力の基盤を形成し、学習や社会参加に直結する極めて重要な課題である。聴覚活用、発音・発語指導、言語指導を有機的に結び付けながら、日本語習得を支援するための効果的な指導方法や教材開発等について研究する。	久留米聴覚特別支援学校 運営責任者: 高木　真咲子
3	教科指導 （中学部・高等部）	言語力とともに自ら思考する力を高める授業の在り方について考える	久留米聴覚特別支援学校 校長　早川　就　氏
		予測困難で変化の激しい社会の中で、自ら豊かな生活や社会を創り上げていくために「生きる力」の育成が求められる。この「生きる力」に繋げるためには、特に中学部・高等部において、言語力とともに自ら思考する力を高めていくことが必要である。このような力を育成するために、授業における指導や支援について研究する。	小倉聴覚特別支援学校・ 直方特別支援学校 運営責任者: 鷹﨑　彩 （小倉聴覚特別支援学校）
4	キャリア教育	一人一人の発達段階に応じた組織的・系統的なキャリア教育の推進について	福岡教育大学 准教授　喜屋武　睦　氏
		それぞれの発達段階に応じた課題を達成し、社会人として自立した生活を送ることができるように、家庭や地域との連携、学校全体としての組織的・系統的なキャリア教育の在り方や指導方法について考える。	長崎ろう学校 運営責任者: 戸上　敦史

【分科会　時間設定】

発表１ ①学校紹介 ②概要 ③実践（事前質問含む） ④考察・まとめ （１５分）

発表２ ①学校紹介 ②概要 ③実践（事前質問含む） ④考察・まとめ （１５分）

発表３ ①学校紹介 ②概要 ③実践（事前質問含む） ④考察・まとめ （１５分）

質疑応答（１５分）、協議 （２０分）　指導・助言 （２５分）

13　開会行事式次第

（1）開式の辞　　教頭
（2）挨拶　　九聴研会長
（3）来賓挨拶　　教育長
（4）来賓紹介　　教頭
（5）研究概要説明　研修主任
（6）閉式の辞　　教頭
（7）諸連絡　　事務局

14　閉会行事　　各研究協議分科会会場にて実施（動画視聴）

15　大会参加費　会員　無料　　会員外　1,000 円　　学生　500 円

16　大会要項・研究のまとめ・指導案集について

・大会要項・研究のまとめ・指導案集は、冊子での配布はいたしません。10 月下旬にＰＤＦデータで事前に配布いたします。必要な資料は各自印刷やダウンロードをしてご持参ください。

17　情報保障について

・各会場に「情報保障席」を準備しますので、貼り紙のある椅子にお座りください。
・音声文字変換はアイセックジャパン・YY システムを使用します。修正はいたしますが、ある程度の誤変換はご容赦ください。

18　11 月 26 日（木）の昼食について

・体育館または各分科会会場、控室をご使用ください。弁当や飲み物については、各自ご準備の上、所定のゴミ箱へ捨ててください。

19　その他

・スリッパは準備しています。下足を入れる袋を準備していますので、各自で管理お願いします。
・幼児児童生徒の撮影は禁止いたします。公開授業の撮影もご遠慮ください。また、各発表時にスクリーンに投影される発表内容の撮影もご遠慮願います。